

## 工業簿記（問題編）目次

日商簿記検定 2 級の概要	・・・	P. 2
本書の特徴と効率的な使い方	・・・	P. 3
進度チェック表	・・・	P. 10
問題編 第 4 問対策	・・・	P. 14
第 4 問に関する出題論点の概要	・・・	P. 14
A ランク問題		
(1) 材料費	問題 1～3	・・・ P. 15
(2) 単純総合原価計算	問題 4～8	・・・ P. 19
(3) 製造原価報告書	問題 9	・・・ P. 25
(4) 勘定記入	問題 10	・・・ P. 27
B ランク問題		
(1) 部門別計算	問題 11・12	・・・ P. 30
(2) 個別原価計算	問題 13	・・・ P. 36
C ランク問題		
(1) 労務費	問題 14・15	・・・ P. 38
(2) 経費	問題 16	・・・ P. 43
(3) 本社工場会計	問題 17	・・・ P. 46
問題編 第 5 問対策	・・・	P. 50
第 5 問に関する出題論点の概要・	・・・	P. 51
A ランク問題		
(1) 標準原価計算	問題 1・2	・・・ P. 52
(2) 損益分岐点分析	問題 3・4	・・・ P. 57
B ランク問題		
(1) 組別総合原価計算	問題 5	・・・ P. 62
(2) 工程別総合原価計算	問題 6・7	・・・ P. 65
C ランク問題		
(1) 製造間接費	問題 8	・・・ P. 69
(2) 直接原価計算	問題 9・10	・・・ P. 73
(3) 等級別総合原価計算	問題 11	・・・ P. 79

## 日商簿記検定2級の概要

### ●試験の実施時期

毎年2月、6月、11月の日曜日（年3回）

### ●試験科目

商業簿記

工業簿記

### ●試験時間

2時間

### ●合格基準

70%以上

### ●受験者数・合格率

毎回の受験者数はだいたい4万人以上であり、合格率は30%前後が標準的な目安です。

### ●レベル

株式会社の経営管理に役立つレベルの商業簿記および工業簿記(初歩的な原価計算を含む)です。財務諸表を読む力、企業の経営状況を把握できるだけの知識がみについていないかが試されます。

出典 日商検定・簿記ホームページ

(<http://www.kentei.ne.jp/boki/>)

## 本書の特徴と効率的な使い方

### ●標準的なレベルの出題で、85点以上得点できる力をつける

日商簿記検定2級の本試験は、第1問～第5問まで、大問5題が出題されます。

配点は次のようになって利、合格ラインは70点です。

問 題	出題内容	標準配点
第1問（商簿）	仕訳問題5題	20点
第2問（商簿）	特殊仕訳帳、伝票など	20点
第3問（商簿）	決算手続	20点
第4問（工簿）	材料費計算、単純総合原価計算、製造原価報告書、個別原価計算など	20点
第5問（工簿）	標準原価計算、損益分岐点分析、工程別総合原価計算、直接原価計算など	20点

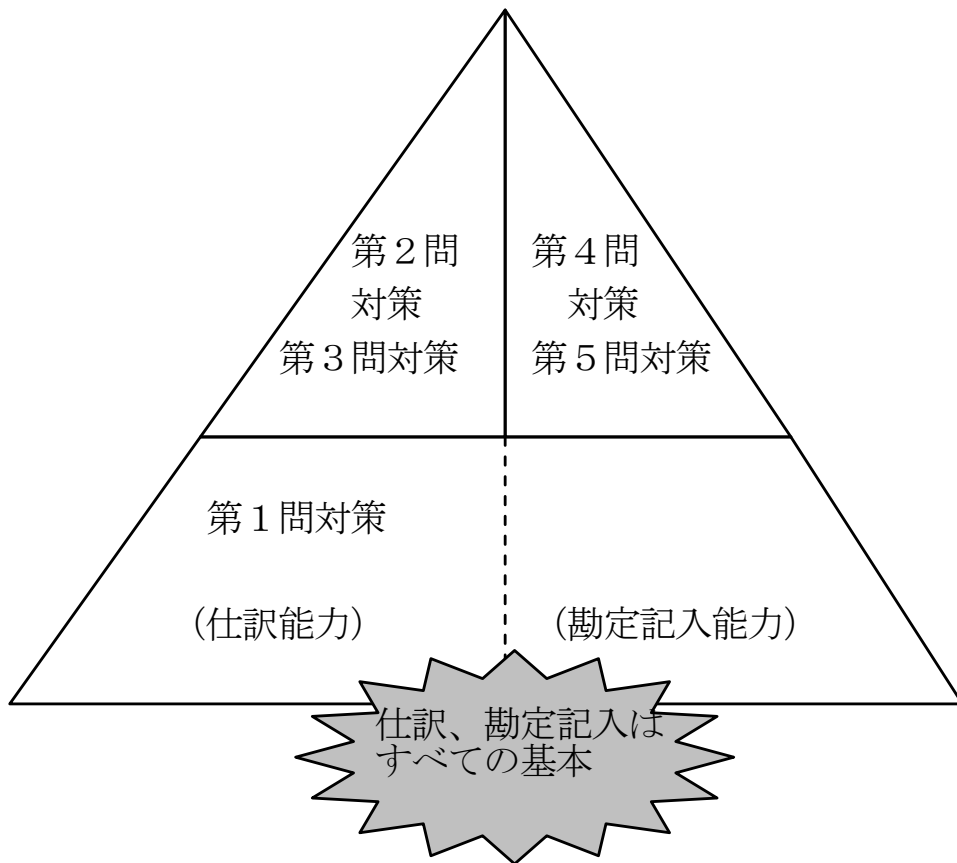
※第4問および第5問は、過去に出題の回数が多いものを出題内容として例示していますが、それぞれ、第4問と第5問のどちらで出題されるかは、かならずしも厳格に区別されているわけではなく、ある程度柔軟に考えていただけるとよいでしょう。

本書の目的は、30%前後の標準的な難易度において、85点前後をとれるような力をつける実力を身につけることです。

そのためには、商業簿記と工業簿記で苦手な科目を作らず、できるだけまんべんなく一定水準の処理をできるよう、知識・手続をマスターする必要があります。

それでは、次に、日商2級の合格に必要な実力とはどういうものか、その全体像を見ていきましょう。

●合格に必要な実力の全体像とは



上記の図表でも分かるように、すべての基本は仕訳能力と勘定記入能力にあります。

商業簿記では仕訳能力と勘定記入能力のバランスが重視されますが、工業簿記では特に勘定記入能力が高いか低いかで、大きく優位性が変わってきますので、普段の学習から、仕訳の学習を行うときには、かならず総勘定元帳のT字記入（勘定記入）を意識してください。

なお、ちまたでは、よく（工業簿記が苦手だから商業簿記で点をかせいで…）などという声が聴かれますが、とんでもないことです。

工業簿記のほうが、圧倒的に論点数が少なく、かつ、合格に必要な問題数も商業簿記ほど多くないので、あきらかに学習時間に対する得点効率が高いです。

工業簿記が苦手となる原因の第一位は、イメージをもちにくいこと、次いで勘定記入が苦手なこと、です。

しっかりとイメージする習慣をつけ、十分に勘定記入に習熟すれば、工業簿記の全体像をしっかりとつかまえることができ、かならずや得意分野とすることができるでしょう。

### ●合格力をつけるための本書の構成

工業簿記は、第4問と第5問で、各20点ずつの配点です。

そして、問題の量からして、目標の解答時間は、それぞれ15分ずつ、2つの問題で計30分以内に解答するだけの習熟度が必要です。

さらにいうなら、工業簿記の出題パターンは、ほぼ15パターンから20パターンにしばられますので、この限られたパターンを繰り返し練習することで、短時間での解答が可能になるのです。

※実際の本試験における解答時間

第4問15分+第5問15分=計30分以内

また、各章で出てくるトレーニング問題については、次の表のように、本試験のデータ分析に基づいて、Aランク、Bランク、Cランクに分類し、出題率の高いテーマを優先させて並べています。

つまり、本書のAランクのテーマをまず重点的にマスターし、次にBランク、Cランクと、本試験までに残された時間をにらんでできるだけ反復練習するのが望ましい対策です。

目安としては、Aランクは3回以上、Bランクは2回以上、Cランクは1回以上の解き直しです。

不必要に多くの種類の問題数をこなしても、特にAランク論点の回転数が3回以下だと、緊張状態での短時間解答が、ものすごく難しくなり

ます。かえって、良質な問題数に厳選して、それらを2回、3回、場合によっては4回と徹底的に繰り返し、答えを覚えるまで解きまくることこそが、工業簿記の短期マスター法の王道なのです。

● 2級の工業簿記試験の各問における出る順ランク分けの基準

ランク	第4問、第5問
Aランク	過去3回以上の出題
Bランク	過去2回の出題
Cランク	過去1回の出題

※ Cランクとはいっても、Aランク・Bランク問題の前提知識になるような論点も多く含まれているので、できれば2回以上は繰り返して練習していただきたいところです。

● 工業簿記を苦手にしやすい人のパターン

1. はじめから細かいところが非常に気になり、そのときそのときで完璧に理解しないと先にいけない人。
2. 3級の学習のとき以来、T字勘定の記入練習をおろそかにしてしまい、仕訳ばかりで商業簿記の学習をしてきた人。
3. T字勘定が苦手なため、勘定連絡が上手にかけず、工業簿記の全体像がまったくイメージできていない人。
4. 工場に対して、別世界のような印象を持っており、一つ一つの学習項目について、身近な例でイメージし想像するという努力を怠っている人。
5. 工業簿記は難しい、と取り組む前から勝手に先入観を持っている人。

●工業簿記を得意にするための5か条

1. 細かいところは気にせず、全体の計算体系をおおざっぱに理解しようと考えよう。
2. 仕訳と総勘定元帳を、つねに同時に意識して、どんなときも簿記を学習するように心がけよう。
3. T字勘定を何度も書いて、おおまかな勘定連絡図を即座にかけるよう、トレーニングを日ごろから積んでおこう。
4. 原価計算は、工場だけで行われるものではなく、ファーストフードも洋服屋さんも飲食店も例外なく行っている、という事実をしっかりと意識し、身近な事例で考える癖をつけよう。
5. 工業簿記は、実はそんなに難しくないんだ、と常に自分に言い聞かせ、自信を持って取り組もう。
6. とにかく、良質な問題を厳選して、2回、3回と徹底的に反復練習することに神経を集中させよう。できなかつたら、すぐに次の問題に進めばOK！

短時間多回転こそが短期合格の王道である！

●効果的な学習法はこれだ！

本書を使って、さらに効果的な学習を進めるための方法をご紹介します。まずは、下記のような手順を頭に入れておきましょう。

**その1** 工業簿記は、できるだけ2日に1回は学習するようにする。  
学習時間は、1日15分単位が望ましい。

**その2** 15分で1単位の学習内容は、「各論点の基礎知識」(15分)、  
「問題の解答」(15分)、「答えあわせと解説」(15分)という構成とする。

まず、工業簿記の学習を2日に1回は行う、というペースですが、これは、そもそも簿記が記帳技術・計算技術というスキルの習得を目的とした科目である以上、時間を空けるほど技術が落ちていく、という状態になるからです。2日以上、工業簿記の知識を確認したり応用したりし

ないと、感覚がてきめん鈍ってきます。それをとりもどすには、倍以上の労力がかかります。

学習上、とても非効率となりますので、2日に1度は、かならず工業簿記の知識確認と工業簿記の知識を使った練習を行ってください。

次に、15分という時間を、常日頃から意識して学習することで、自然と体に15分の感覚をしみこませることができるようになります。

本試験の最中、もっとも恐れなければならないのは、緊張から来るパニックと時間配分の失敗です。

特に、初めての受験の場合は、ちょっとした思い違いですぐに緊張度が極限まで達してしまいます。

そんな時、無意識にでも普段から15分という時間で繰り返しトレーニングし、体で覚えていた方が、自身を窮地から救ってくれる可能性がグッと高まります。

「普段やっていることが、土壇場が出る。」

「日常の努力こそすべて。」

そう言い聞かせて、本試験の一瞬で悔いを残さないためにも、普段から工業簿記の学習で15分を意識してください。

次に、15分学習でやっておくべきことですが、テキストや授業で習った基礎知識の確認、問題の解答、答えあわせと解説の検討の3つの学習内容を、交互に繰り返し行うことが、非常に有効です。

基礎知識の確認は、あまり細かいことを気にせず、場合によっては基本テキストやノートなどにもどって軽くチェックしながら読み進めていくとよいでしょう。あまり深くこだわって、時間をかけすぎるのはかえってマイナスです。分からないところは気にせず飛ばしてしまおう、というくらいのおおらかさでちょうどよいでしょう。問題の解答15分は、きっちりと時間を計り、途中で時間切れになっても、かならずそこで手を止め、解いた範囲での出来具合を確認してください。

20分も30分もかけて1問を解くのは、まったく実践的な練習とはいえません。

時間制限のないトレーニングは、気休めにもならない、と心に固く誓

って、常に本試験のつもりで、緊張感を保ちながら解きましょう。

答え合わせは、自分がどういった処理・どういった論点でよく間違えるかの確認を、特に意識してしっかりと行ってください。

間違え方には、個人ごとに癖があります。

その癖を直すのは、意外に大変です。

自分が間違えやすいパターン集・論点集みたいなノートを作ってもいいですね。これは、なかなか効果的です。

とにかく、苦手な論点を一つでも減らすことです。

Aランク問題から順に、丁寧につぶして行ってください。

なお、本試験までに、本書を利用して学習して欲しい目安の時間を申し上げますと、次のようになります。なお、基礎知識は、各テーマを1回確認する、という仮定で目安時間を設定しました。

第4問対策	基礎知識	9個×15分×1回	(135分)
	Aランク	10問×30分×3回	(900分)
	Bランク	3問×30分×2回	(180分)
	Cランク	4問×30分×1回	(120分)
	計		(1335分)
			<u>約23時間</u>
第5問対策	基礎知識	6個×15分×1回	(90分)
	Aランク	4問×30分×3回	(360分)
	Bランク	3問×30分×2回	(180分)
	Cランク	3問×30分×1回	(90分)
コラム(等級別)		1問×30分×1回	(30分)
	計		(750分)
			<u>約13時間</u>

## 第4問対策

### §1 第4問に関する出題論点の概要

日商2級の第4問において、過去によく出題されている論点は、次のとおりです。

出題テーマ	問われやすい処理・内容	ランク
材料費	材料費の計算、仕訳、補助簿記入など	A
単純総合原価計算	完成品原価や月末仕掛品の計算など	A
製造原価報告書	製造原価報告書の完成	A
勘定記入	仕掛品勘定その他のT勘定に記入	A
部門別計算	部門別配賦表の作成、配賦率の計算など	B
個別原価計算	製造指図書ごとの製品原価や勘定記入	B
労務費	労務費の計算と仕訳	C
経費	直接経費・間接経費の計算と仕訳	C
本社工場会計	工場における仕訳、内部利益の計算	C

※ランクの基準（過去15回分の過去問検討による）

A… 過去3回以上の出題

B… 過去2回の出題

C… 過去1回の出題

このように見ていくと、材料費の計算を除けば、単純総合原価計算、製造原価報告書および勘定記入は、工業簿記の全般にかかわる概括的なテーマです。

全体構造の理解を問うようなスタンスが多いのも、第4問の一つの特徴と言えるでしょう。

以上を踏まえて、本章の出る順問題で効率的にトレーニングを積んでおきたいところです。

### 【問題 1】

次の材料費に関する取引を仕訳しなさい。当工場では、実際単純個別原価計算を採用している。なお、勘定科目は、次の中から最も適当なものを選ぶこと。

当座預金	売掛金	材 料	仕掛品	製 品
買掛金	預り金	賃金給料	原価差異	製造間接費

- ① 原材料 750kg を 1kg 当たり 1,020 円で購入し、代金は掛けとした。  
なお、引取運賃 15,000 円を小切手振出により支払った。
- ② 上記原料の当月における実際払出数量は 720kg であった。このうち、特定の製造指図書に向けた払出分は 640kg だった。予定消費価格 1,000 円  
で材料費の消費額を計算する。
- ③ 原材料の月初有高は 60kg、月末有高は 90kg であり、棚卸減耗は発生しなかった。実際払出価格の計算を後入先出法によるとして、材料消費価格差異を計上する。

### 【問題 2】

次の資料に基づいて、答案用紙の材料勘定を完成させなさい。

(資料)当月の材料の払出高は 2,100 個である。

この材料の月初有高は 500 個 (@ ¥600)、月間買入高は 2,000 個 (@ ¥700)、月末の有高は 390 個であった。材料の払出高 2,100 個はすべて直接材料費であり、減耗量は正常な数量だった。

なお、材料払出高の計算は平均法による。

**【問題 3】**

次の（資料 1）～（資料 3）に基づき、答案用紙の取引に関する仕訳を書くとともに、材料勘定の（ ）内に適切な金額を記入しなさい。

なお、購入代価はすべて掛けであり、引取費用はすべて小切手振り出しで支払っている。

（資料 1）

3月 1日	前月繰越高 246,000円（150個）
4日	仕入 1,950個（購入代価@1,600円）、引取費用 39,000円
9日	製造指図書No.101 むけの出庫 1,800個
14日	仕入 2,400個（購入代価@1,620円）、引取費用 57,600円
19日	製造指図書No.102 むけの出庫 2,500個
26日	3月 19日出庫分のうち、50個が倉庫へ戻ってきた。
31日	实地棚卸の結果、期末の実際数量は 230個だった。 帳簿数量との差(棚卸減耗)は、正常なものである。

（資料 2） 取得原価の計算上、購入のつど購入代価に対する 5%の内部副費と引取費用を加算している。

（資料 3） 材料の消費単価の計算は、先入先出法による。

**【問題 11】**

受注生産経営を行う東京工場では、直接作業時間を配賦基準として、製造間接費を部門別に予定配賦している。下記資料 I から V にもとづいて、次の(1)から(5)の金額を計算し、解答用紙の解答欄に記入しなさい。なお、補助部門費の配賦は直接配賦法による。

- (1) 補助部門費配賦前の組立部門費
- (2) 補助部門費配賦後の加工部門費
- (3) 組立部門の製造間接費配賦率
- (4) 製造指図書No.101 に対する製造間接費配賦額
- (5) 製造指図書No.102 に対する製造間接費配賦額

<資料>

I 当工場の予定直接作業時間(年間)

加工部 60,000 時間  
組立部 30,000 時間  
合 計 90,000 時間

II 当工場の製造間接費予算

(単位：万円)

	合 計	加工部	組立部	材料倉庫	工場事務
部門個別費	18,000	5,400	5,112	3,528	4,104
部門共通費					
建物減価償却費	2,400				
福利施設負担額	3,600				